

■ 洗浄・消毒・滅菌

■ スポルディングの分類

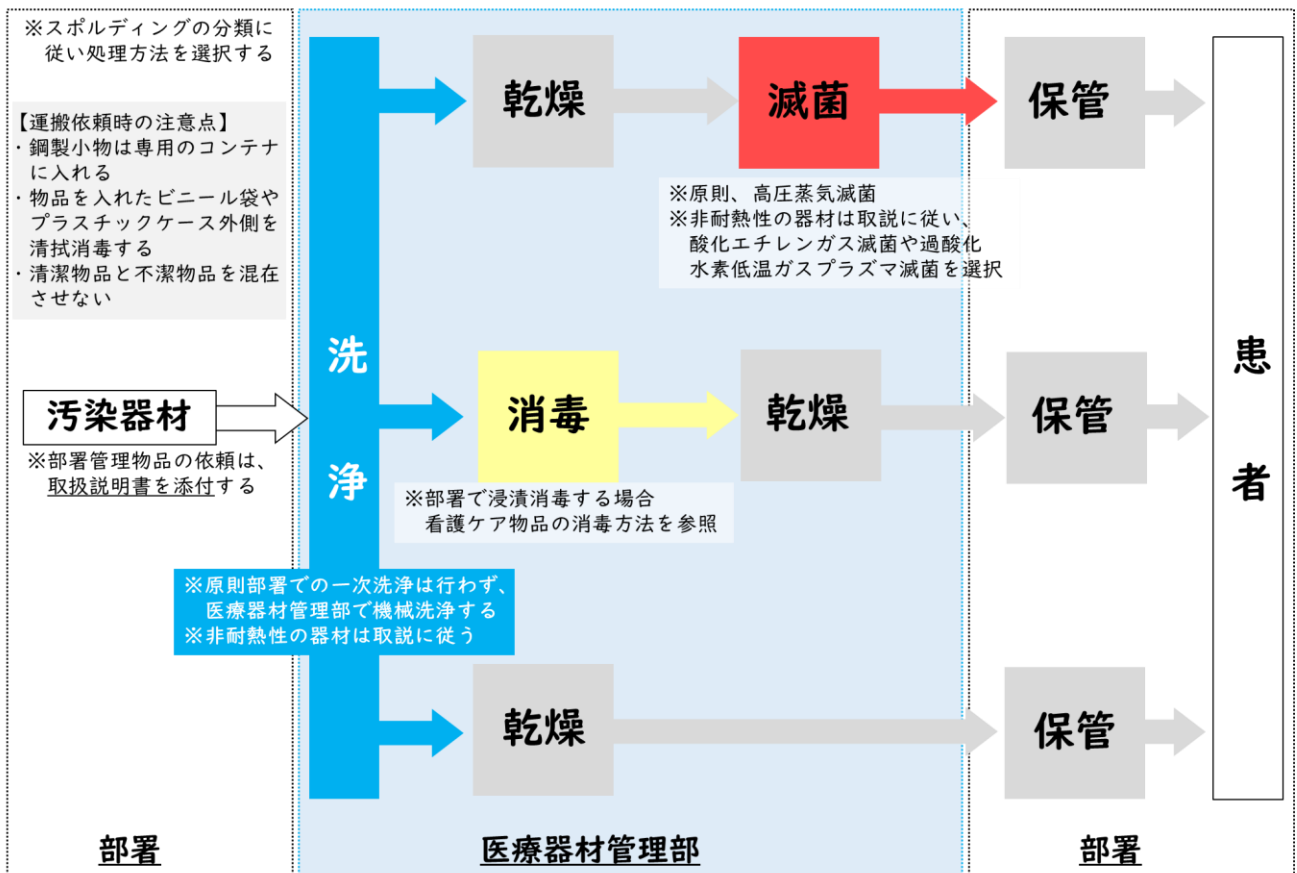
器材の分類	対象	物品	処理方法
クリティカル	無菌の組織や血管系に挿入するもの	手術用器械・インプラント器材・針	滅菌 高水準消毒(化学滅菌)
セミクリティカル	粘膜または創のある皮膚と接触するもの	人工呼吸器回路・麻酔関連器材・内視鏡	高水準消毒
		体温計(口腔)	中または低水準消毒
ノンクリティカル	医療機器表面	モニター類	あらかじめドレープでカバー 清拭清掃
	皮膚に接触する医療用具	血圧計のカフ・聴診器・便器・尿器	低水準消毒 アルコール清拭
	ほとんど手が触れない	水平面(床)	定期清掃、汚染時清掃 退院時清掃
		垂直面(壁・カーテン)	汚染時清掃 汚染時洗浄
	頻回に手が触れる	ドアノブ・ベッド柵 床頭台のテーブル等	1日1回以上の定期清掃または 定期消毒

■ 患者に使用した物品の処理方法

患者に使用される物品は、どのように使用されるのか、また使用時に患者が受ける感染のリスクを考え、スポルディングの分類に添って最終処理を行う。また、器具に付着した有機物や汚れの残存は化学殺菌物質を非活性化したり、凝固・変性することによって微生物を保護したりして消毒や滅菌が無効になることがある。そのため、消毒や滅菌処理を行う前に必ず洗浄して有機物や汚れを取り除く。また、現場における一次洗浄/消毒は、汚染の拡散や職業感染につながる危険性が高いため、洗浄・消毒・滅菌は原則医療器材管理部で行なう。部署で洗浄と消毒を行う器材は、主なケア物品・器材の消毒方法を参照し、適切に処理する。

洗浄・消毒・滅菌の流れ

□: 管理場所



■ 洗浄

洗浄とは「滅菌または消毒を効果的に遂行できる程度まで、あるいは、意図する使用に適するまで、対象物から汚染物を除去すること」である。

【洗浄方法】

耐熱性のある器材は、ウォッシャーディスインフェクターを用いた機械洗浄を行う。非耐熱性の器材については、取扱説明書に従い、界面活性剤を用いた用手洗浄、酵素系洗剤を用いた浸漬洗浄や超音波洗浄を行う。

【鋼製小物の洗浄】

手術で使用する器械類および病棟や外来で処置に使用する鋼製小物の消毒法について述べる。

原則的には、これらの鋼製小物類は最終的に滅菌して使用されるものであり、その一次処理としての洗浄に消毒薬を使用する必要はない。血液、体液が付着したものは感染性があり、使用後は現場で洗浄せずに運搬用コンテナ、あるいは蓋付き容器などに密封して専用の洗浄室へ運搬することを基本とする。病棟や外来等、各使用部署にある流し台などで洗浄を行うことは、作業員に対する危険性ならびに周辺環境汚染を起こすため禁止すべきである。

専用の洗浄室では、作業員はゴーグル、マスク、ゴム手袋、撥水性エプロンなどの防御のもとに、器械を分解

し洗浄しやすい工夫をして、ウォッシャーディスインフェクターを使用した高温洗浄処理が推奨されている。ウォッシャーディスインフェクターによる高温洗浄により、滅菌水準には達しないが病原微生物による感染性は消失する。したがって、その後の組立作業や保管庫への作業では、素手で器械に触れてもさしつかえない。

■ 消毒

消毒とは、人体に有害な微生物の感染性をなくすか、数を少なくすること。必ずしも、微生物をすべて殺滅するものではない。

【消毒レベルによる分類と対象器材】

レベル		対象物品
高水準消毒	大量の芽胞の場合を除いて、すべての微生物を殺滅	※内視鏡※
中水準消毒	芽胞以外のすべての微生物を殺滅するが、なかには殺芽胞性を示すものがある	哺乳瓶、薬液カップ、尿器、便器 など
低水準消毒	結核菌などの抵抗性を有する菌および消毒薬に耐性を有する一部菌以外の微生物を殺滅	血圧計、体温 環境表面：オーバーテーブル、床頭台 など

【部署での浸漬消毒を行う場合の注意点】

- ・ 消毒剤の容器は、定期的かつ十分に洗浄し、乾燥した清潔なものを用いる。また、適当な容器がない場合は、ビニール袋で代用可能だが単回使用とする。
- ・ [適切な濃度の消毒剤を用いる。※消毒剤希釈早見表](#)
- ・ 浸漬開始時間を表示し、適切な浸漬時間を確保する。[※看護ケア物品の消毒方法※](#)
- ・ 器具は完全に浸漬させ、消毒容器には必ず蓋をする。適当な容器がなくビニール袋で代用する場合は必ずビニール袋の口を縛って密閉し、ビニール袋内の空気を抜いて器具を完全に浸漬させる。また、非遮光性の消毒容器の場合、直射日光が当たらない場所で管理する。
- ・ 消毒剤の作成は必要最少量の用時調製とし、24 時間以上使用しない。

【鋼製小物の消毒】

専用の洗浄装置がない場合の血液媒介ウイルスを対象とした処理では、器械を分解して流水による用手予備洗浄を行い、血液などの有機物を完全に除去した後、2 w/v%グルタラール溶液に1時間以上浸漬消毒する。その後、再び洗浄を行って消毒薬を除去する。

【手術用リネン(覆布)類の処理】

手術室において血液や体液で汚染される可能性のあるシーツや覆布類は、焼却処理してもコスト面で負担の少ない非透過性の不織布製品を使用する。ゴムシーツやエプロンが感染性の高い血液で汚染した場合には、洗浄や滅菌が困難であるばかりか、その処理を行う作業にも危険が及ぶので、なるべくディスポーザブル製品を使用する。血液の付着した木綿製品を再使用する場合には、速やかに 80℃以上の熱水で 10 分間、洗濯を行う。

■ 滅菌

滅菌とは、すべての微生物を殺滅させるか、完全に除去すること。

【滅菌方法】

原則、高圧蒸気滅菌にて滅菌する。しかし、高圧蒸気滅菌は温熱による器材の熱変質をきたす可能性があるため、非耐熱性の器材については取扱説明書に従い、酸化エチレンガス滅菌や過酸化水素低温ガスプラズマ滅菌を行う。部署管理物品で取扱説明書がなく高圧蒸気滅菌が可能か判断できない器材については、依頼部署の指示に従って滅菌法を選択する。

【滅菌物を使用するときの注意点】

使用前に化学的インジケータの合格判定(内・外部のインジケータの色が記載通りに変化している)や有効期限を確認し、包装破損がないことを確認する。濡れた痕跡、または乾燥不十分な滅菌包装物は不潔物とみなし使用しない。